



輝け！OKB517



471名+教職員46名

異学年交流が生み出すパワー

校長 山本 邦彦

前庭の木々が1年間の役目を終えたように葉を落とし、山間部では雪の便りも届く季節となりました。早いもので、あと3週間ほどで子供たちが楽しみにしている冬休みを迎えます。2学期の子供たちの成長を共に見守っていただいた地域や保護者の皆様には感謝申し上げます。

さて、先月、「たてわりなかよしポイントラリー」を行いました。縦割り掃除をはじめ普段一緒に活動しているなかよしグループで、学校内にある様々なミッションをクリアする活動です。暗算や漢字クイズ、フラフープくぐりや片足立ちゲーム等のたくさんのミッションがあり、低中高とチャレンジできる学年が決まっていたり、全員で心を合わせて答えたりするなど、趣向を凝らしたもののばかりでした。グループの人たちと協力し合いながら活動そのものを楽しむ姿がたくさん見られる中、「頑張れ。もうちょっとだよ」「やったね。すごいな」といった声かけがその場の雰囲気をもたらし、リーダーが走って移動しようとするメンバーに声を張り上げず優しく注意したりするなど、相手の気持ちを考え行動する場面もたくさん見られ、みんなの笑顔が広がっていました。

本校では、異学年交流を生かした集団活動の向上に努めています。人との良好な関わりは社会性の基礎を形づくる上で不可欠です。その中で効果的な方法の一つとして「異年齢の交流活動の推進」であることが文部科学省の報告書の中でも挙げられています。今回の「たてわりなかよしポイントラリー」で見られた温かな関わりは、子供たちが立場の違いや役割を意識し、他人の役に立ち、喜んでもらいたい認めてもらいたいといった気持ちが生み出したものです。年間を通した縦割り活動や縦割り掃除だけでなく、毎日の学校生活の中での異学年との関わりも子供たちの成長を後押ししています。6年生が休憩中に1年生教室に出向き一緒に遊ぶ時の姿は生き生きとしています。5年生が公開した総合的な学習の時間の発表を4年生が真剣な眼差しで聴き、それに応えようとする5年生の姿がありました。2・3年生は下級生を招待する学級活動や発表会に向けて意欲的に活動に取り組んでいます。そうした関わりを通して得た学びが自分を見つめ、向上していこうとする姿へと繋がり、お互いに励まし合い認め合うことで、集団そのものの質の向上に繋がっていきます。異学年交流が生み出すパワーをいつまでも大切にしたいです。

冬休みは生活の場の中心が家庭となります。家族の一員として大掃除を手伝ったり、トランプやカルタといった遊びで交流したりするなど、家族と大いに触れ合いながら、今年一年の成長を振り返り、新年に向けての新たな目標をもつ温かくも意義ある休みとなればと思います。

長寿命化工事が始まります

12月初旬より校舎の長寿命化工事のための仮設校舎建設が始まります。工事中も児童の安全を第一優先とし、関係各位と連絡を取り合い、安全に関わる情報を共有してまいります。